

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471001303	事業の開始年月日	平成16年10月	
		指定年月日	平成16年10月	
法人名	有限会社 横浜ヒューマンヘルスケアシステムズ			
事業所名	グループホーム横浜名瀬・彩り			
所在地	(245-0051)			
	横浜市戸塚区名瀬町793-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成21年10月17日	評価結果 市町村受理日	平成22年1月18日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://center.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人生の最終章、自分らしく生き抜く事を実現出来る我が家でありたい」というスローガンのもと、入居された方には、出来るだけ我が儘(良い意味で)に日々を過ごして頂けたら思っています。出来る限り入居者の訴えには耳を傾け、支援させて頂いておりますので、少々無理難題にも応えております。21年9月には富士山の5合目までドライブに行ってきた。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成21年11月12日	評価機関 評価決定日	平成21年12月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

◆事業所独自の理念5項目をわかりやすく、「人生の最終章、自分らしく生き抜く事を実現出来る我が家でありたい」をスローガンに掲げ、利用者一人ひとりの思いや意向をできる限り実現できるよう、職員間で話し合い、日々の支援を行っている。
 ◆常勤職員、非常勤職員の区別なく、職員の育成を重視し、事業所内で月1回勉強会を開催したり、法人内の研修や外部研修の受講を勧めている。
 ◆業務改善委員、環境委員、レク委員などを設置し、職員の意見や提案を事業の運営に反映させている。
 ◆自治会に加入するとともに、町内会行事等に参加したり、事業所で行事を開催する際には地域の方々に呼びかけるなどして、地域の方々と交流を図っている。
 ◆運営推進会議を通じて、地域包括支援センターとの連携で、地域の方々の認知症に関する相談を受けたり、自治会や地域との協力体制で、災害緊急時の事業所の救援だけでなく、地域での事業所の活用について検討を進めるなど、「事業所がしていただけること、事業所ができること」をもって、地域と共に生きる活動をしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム横浜名瀬・彩り
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オープン当初より変わらぬ理念を持っている。定期的に理念についての研修を行い実践に繋げることが出来るよう心がけている。すぐ見れる所にも添付している。	全職員参加の月1回開催するカンファレンスや勉強会で、理念を掘り下げて、利用者一人ひとりの思いや意向をできる限り実現できるよう、職員間で話し合い、日々の支援を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の施設との交流、中学校との交流を行っている。ボランティアも地域の方々に依頼し、様々な活動に協力して頂いている。	自治会に加入し、町内会の夏祭りや、地域ケアプラザ主催の「歌声喫茶」などに参加している。また、事業所のお祭りやバザーに、地域の方々へ呼びかけたり、中学生の体験学習の受け入れなどを通して、来所してもらい、事業所の理解促進に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域貢献に向けて話し合い、9月に名瀬地域ケアプラザ主催の介護者の集いに協力し実践している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回実施しており、様々な意見を頂き、実践に活かしている。	利用者、家族、町内会代表、民生委員、地域包括支援センター担当者、事業所の職員が出席して、3カ月ごとに開催し、事業所の活動報告に対して参加者から質問、意見、提案、要望等を挙げてもらい、サービスの質の向上に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所主催の連絡会には必ず参加し、協力関係を築けるように取り組んでいる。	数カ月ごとに行われる区のグループホーム連絡会に出席する機会を通して、利用者の暮らしぶり、事業所の課題や要望を交えた情報交換を行っている。また、生活保護受給の利用者の暮らしに関する相談等を区担当者で行い、連携を図っている。	

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はオープン以来1度も行っていない。ホームとしても拘束ゼロの考え方があり、スタッフにも周知徹底している。	「虐待、身体拘束」のマニュアルを整備し、勉強会等を行い、職員に虐待や身体拘束を行う弊害等を徹底している。職員は、利用者の行動パターンを把握し、見守りに努めている。事故防止のため、家族の同意を得て、玄関は内外双方向から施・開錠可能な鍵を使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が研修に参加して、それを研修報告の場でフィードバックし、周知徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修などに参加して学んでいる。必要と考えられる家族に対して個別に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明、重要事項の説明は時間をかけて行っている。重度化、緊急時の対応も同意書をとって説明している。必要に応じて医師からも説明してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。ホーム内研修にも利用者が参加し、そこで意見を表出できるような環境を提供している。	事業所内外の苦情・相談の窓口について重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。意見箱を設置するとともに、家族の来所時には職員から気軽に話しかけ、相談しやすい雰囲気作りに心がけ、出された意見はカンファレンスで検討の上、対応している。苦情があった場合には、苦情対応マニュアルに基づき、対応することとしている。	

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回カンファレンス、勉強会、委員会を実施し広く意見を聞いている。管理者による個人面談も1年に1回以上は行っている。	管理者は、職員と日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、また個人面談を通して、職員と話し合っている。また、月1回開催のカンファレンス、勉強会、各委員会でも、職員の意見や提案を聞き、ユニット間での交換研修を実施するなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談によりスタッフの学びたい事を聞き、研修に繋げている。業務改善委員を設置し労働環境を整える努力をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のホーム内勉強会、外部の研修を受講し、ケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修を実施したり、GH協会の研修に参加したりして横の関係を構築できるように努めている。彩り祭りの際には近隣のGHをご招待している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して生活ができるような継続性を工夫している。(例 一人での散歩を継続。お酒、タバコの継続など)継続性を重視する事で入居後の生活に安心感を持てる		

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけて面談を実施している。その中で様々な事に耳を傾け、一つづつ解決できるような話し合いをしている。ホーム入所後も信頼関係を築けるような努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	彩り入居を前提に相談に乗らず、本人の状況を勘案しながら必要なサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	勉強会で一人一人の生活暦を勉強し、より深く知ることに努めている。日々の暮らしの中で入居者に役割を持って頂き、支え合いながら過ごしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1ヶ月に1回入居者の生活状況を家族に報告している。支援方法を変更したり、状態の変化が見られるときは、家族に連絡、相談し支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に皆様の希望を聞いて、昔行ったことがある所、行きたい所へ出かけている。 (例 大船のフラワーセンター等)	利用者一人ひとりの生活習慣や思い出から、要望を聴き、できるだけ希望に添えるよう家族の協力も得て、支援に努めている。通い慣れた床屋を利用している人もいる。	

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士好き嫌いがあるので、気の合う方同士でドライブに行く事もある。関係を構築する為にスタッフが間に入り支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の前段階で次の生活も穏やかに継続した支援を行えるように相談・支援を行っている。退去後のフォローについては必要に応じて支援していきたい。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	カンファレンスにて一人一人の状況把握に努め、その場で出た意見をケアプランに取り入れ支援をしている。	利用者との日々の会話や、入浴時など利用者がくつろいでいる時に交わす言葉や表情から意向を汲み取り、また家族の意向や要望も合わせ、カンファレンスで話し合い、利用者本位となるよう支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前までに今までの暮らしを把握できるよう努めている。入居後も本人や家族から話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分の家にいるようにゆったりと過ごしている。現状把握できる様に毎日朝、夕に申し送りを実施。記録も残している。		

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1度ケアプランを見直し、その話し合いの中から支援のあり方を再確認している。	本人・家族の意向、日々の利用者との関わりを通じた職員の気づきや意見を基に、全職員参加のカンファレンスで話し合い、介護計画を作成し、家族の同意を得て実践している。状態が変化した場合は、随時、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添って毎日記録をしている。特記事項は経時記録用紙に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には本人・家族の意向には応えるというスタンスである。よく相談し合いその時々に応じた1番良い支援を選択し実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の老人施設とは連絡をとり行事などに参加させてもらっている。中学校とも交流があり入居者の方々はそれらをととても楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医を確認し適切な医療を継続できるように支援している。当ホームにも訪問診療はあるが、他病院をかかりつけ医としている方も2名いる。	希望するかかりつけ医での受診ができ、これまでのかかりつけ医での診療には家族の対応を原則とし、希望により職員が同行し医師からの情報を得ている。また、協力医療機関による定期検診及び治療を行っている。	

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日訪問看護師が来所され支援している。オンコール体制なので必要な時に必要な相談が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、早期の受け入れが可能と予め家族、病院、関係者に伝え、連絡・相談を密に行っている。治療が終了次第、再入所できる様な体制もとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に明記し、別紙でも説明し同意を頂いている。重度化してきた早期の段階で今後の方向性について話し合っている。必要に応じて医師からも説明している。	ターミナルケアを行う場合は、協力医療機関の医師及び訪問看護ステーションの看護師との連携体制により実施することとし、家族と「重度化した場合における対応に係る指針及び同意書」を交わしている。職員に対しては、ターミナルケアに関する研修を実施し、全職員で方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員消防署主催の普通救命講習を受講する事を義務付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施している。運営推進会議の場で地域とどのような協力体制を築けるか話し合っている。	緊急連絡網及び緊急対策マニュアルを作成し、利用者と共に年2回避難訓練を行っている。運営推進委員会を通じ、災害緊急時の事業所の救援と地域での事業所の活用について検討をしている。水、乾パンなど2日分の蓄えをしている。スプリンクラー及び緊急通報装置は、本年度中に設置の予定である。	

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の生活暦を確認したり、家族から得た情報を基に触れられたくない話題は出さないようにしている。	研修等を行い、人格の尊重を踏まえ丁寧な言葉かけを徹底し、ボランティアにも説明している。記録等は事務所内の施錠できる書棚に保管し、廃棄する際はシュレッダー利用等の徹底を図っている。彩り新聞の利用者写真の掲載も家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる入居者が少ないので、スタッフが本人の思いを汲み取りながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	クラブ活動や入浴等本人が拒否する時は無理に支援しないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は本氏の意に添って行っている。自ら意思表示出来ない方は、過去の髪型等を家族からお聞きし、支援している。日頃のおしゃれは一緒に選んで支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべくできる事を一緒に行うようにしている。好き嫌いがあるので声かけはするが無理強いはいしない。	利用者にごしらえや、配膳・下膳など、できることを行ってもらっており、訪問調査の昼食時には、食事は利用者と職員が会話を楽しみながら摂っている様子がうかがえた。また、日頃の献立は食材配達業者から食材の供給を受けているが、月に1度利用者のリクエストを聞いて、調理したり、出前や外食など、要望に応じている。	

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は外部に依頼し、栄養バランスのとれた食事を提供している。各々の体調、病歴に応じた支援も実施している。食事量、水分量は毎日、体重は1ヶ月に1回確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを支援している。必要に応じて歯科受診も支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導を支援している。排泄記録にチェックをして、排尿パターンを把握し、支援に繋げている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録して全職員が把握し、さりげないトイレ誘導などでオムツ使用を増やすことなく、現状維持を目標とした排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつにサツマイモや寒天ゼリーを摂取して頂く。訪問看護師にお腹の音を確認して頂き、必要に応じて、摘便・下剤を使用することもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴をしたい方は、その希望に添って支援を行う。それ以外の方は2日に1回のペースで支援している。	入浴は基本的に2日に1度であるが、希望により毎日でも対応している。入浴時間はその日の朝に希望を聞き、好きな時間に入れるようにしている。入浴を好まない人には、無理強いをすることなく、シャワーや、タイミングを見計らった声かけ誘導で対応している。菖蒲湯、柚子湯等も実施している。	

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は臥床時間を設けているが、本人の希望によって支援している。夜間は本人が眠りたいと居室に戻るまで特に支援しない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎週スタッフ内で話し合い、体調に関して確認をし、訪問診療、訪問看護の際に相談している。服薬に関しては処方されたもの確認しながら、全介助にて支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前情報に加え、生活をする中で本人の好みを知り、ドライブ、買い物、外食、散歩、歌等、楽しい時間を一緒に作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に1回の1階2階合同外出を実施。町内の行事の情報を収集し参加。日常的な外出、ドライブを支援している。	天気の良い日には近くの公園に散歩に出かけたり、希望により買い物に出かけるなど、日常的に外出支援をしている。また、週1回は車で近場の外出、月1回はユニットごとにレク委員会が企画して外出を行い、年に1度は事業所全体で外出を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、買いたい物があれば、お小遣いの中から自由に購入して頂く。高い買い物に関しては家族へ相談。		

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、家族とも相談しながら電話をかけて頂いている（専用の携帯電話を持参している方もいる）手紙のやり取りは現在はないが、以前は行っていた方がいらした。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく季節感が出るように配慮している。行事のお知らせは皆さんの目の付くところに掲示している。	玄関、廊下、居間、台所、食堂、トイレ、浴室などは掃除が行き届いている。玄関や廊下には、季節を感じさせる花が生けられている。食堂兼居間は採光が良く、日差しはカーテンで調整している。居間に続く畳のスペースは、落ちついた雰囲気を醸し出し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションを行う時やお話をする時はスタッフも間に入り、一つの空間で行っている。庭、畳部屋などが共有空間にはある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔、不潔の区別が出来なくなった方は、スタッフが支援をしているが、そうでない方は、本人がなるべくゆったりと生活できるように自主性を重んじている。	利用者の使い慣れたものや好みのものの持ち込みを推奨している。利用者の各部屋には、タンスやテレビ、仏壇、思い出の写真などが持ち込まれ、自分流の設えがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心して暮らせるよう、机・椅子の配置に気を配り、環境を整備も徹底している。風呂場の手すりの設置を検討している。		

事業所名	グループホーム横浜名瀬・彩り
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オープン当初より変わらぬ理念を持っている。定期的に理念についての研修を行い実践に繋げることが出来るよう心がけている。すぐ見れる所にも添付している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の施設との交流、中学校との交流を行っている。ボランティアも地域の方々に依頼し、様々な活動に協力して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域貢献に向けて話し合い、9月に名瀬地域ケアプラザ主催の介護者の集いに協力し実践している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回実施しており、様々な意見を頂き、実践に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所主催の連絡会には必ず参加し、協力関係を築けるよう取り組んでいる。		

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はオープン以来1度も行っていない。ホームとしても拘束ゼロの考え方があり、スタッフにも周知徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が研修に参加して、それを研修報告の場でフィードバックし、周知徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修などに参加して学んでいる。必要と考えられる家族に対して個別に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明、重要事項の説明は時間をかけて行っている。重度化、緊急時の対応も同意書をとって説明している。必要に応じて医師からも説明してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。ホーム内研修にも利用者が参加し、そこで意見を表出できるような環境を提供している。		

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回カンファレンス、勉強会、委員会を実施し広く意見を聞いている。管理者による個人面談も1年に1回以上は行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談によりスタッフの学びたい事を聞き、研修に繋げている。業務改善委員を設置し労働環境を整える努力をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のホーム内勉強会、外部の研修を受講し、ケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修を実施したり、GH協会の研修に参加したりして横の関係を構築できるように努めている。彩り祭りの際には近隣のGHをご招待している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して生活出来るような継続性を工夫している。(例 一人での散歩を継続。お酒、タバコの継続など)継続性を重視する事で入居後の生活に安心感を持てる		

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけて面談を実施している。その中で様々な事に耳を傾け、一つづつ解決出来るような話し合いをしている。ホーム入所後も信頼関係を築けるような努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	彩り入居を前提に相談に乗らず、本人の状況を勘案しながら必要なサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	勉強会で一人一人の生活暦を勉強し、より深く知ることにも努めている。日々の暮らしの中で入居者に役割を持って頂く事で支え合いながら過ごしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1ヶ月に1回入居者の生活状況を家族に報告している。支援方法を変更したり、状態の変化が見られるときは、家族に連絡、相談し支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通っていた床屋に行ったり、働いていた所に墓参りを兼ねて行ったりしている。継続できるように家族とも協力して支援している。		

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出、家事全般を一緒に行う事で、自然と関わり合い、助け合えるような関係を築いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の前段階で次の生活も穏やかに継続した支援を行えるように相談・支援を行っている。退去後のフォローについては必要に応じて支援していきたい。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーションをよくはかり、意向等を把握できるように努めている。把握した意向は出来る範囲で支援している。カンファレンスや勉強会の場で一人一人の思いを共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前までに今までの暮らしを把握出来るよう努めている。入居後も本人や家族から話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りで一人一人の状態把握に努め実践に生かしている。必要があれば関係各所にも相談し支援している。		

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師、看護師にアドバイスをもらい計画書を作成する場合もある。カンファレンス時に様々な意見を取り入れ計画書に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕に一人一人の支援についての記録を残している。申し送りノートも活用しながらタイムリーに支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には本人・家族の意向には応えるというスタンスである。よく相談し合いその時々に応じた1番良い支援を選択し実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の老人施設とは連絡をとり行事などに参加させて頂いている。中学校とも交流があり入居者の方々はそれらをととても楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医を確認し適切な医療を継続出来るように支援している。当ホームにもかかりつけ医が週1回来所されている。		

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日訪問看護師が来所され支援している。オンコール体制なので必要な時に必要な相談が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、早期の受け入れが可能と予め家族、病院、関係者に伝え、連絡・相談を密に行っている。治療が終了次第、再入所出来る様な体制もとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に明記し、別紙でも説明し同意を頂いている。重度化してきた早期の段階で今後の方向性について話し合っている。必要に応じて医師からも説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員消防署主催の普通救命講習を受講する事を義務付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施している。運営推進会議の場で地域とどのような協力体制を築けるか話し合っている。		

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては外部・内部の研修を通じて常に学び、実践出来るよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時のお茶の時間にその日のスケジュールを皆で話し合っている。個別な働きかけは1対1のコミュニケーションの中から、本氏の思いを汲み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	10時のお茶の時間にその日のスケジュールを皆で話し合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は本氏の意に添って行っている。自ら意思表示出来ない方は、過去の髪型等を家族からお聞きし、支援している。日頃のおしゃれは一緒に選んで支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性の入居者で家事手伝いが好きな方は、一緒に行っている。入居者からのリクエストを1品追加するなど工夫をしている。		

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は外部に依頼し、栄養バランスのとれた食事を提供している。各々の体調、病歴に応じた支援も実施している。食事量、水分量は毎日、体重は1ヶ月に1回確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを入居者一人一人に応じた支援をしている。必要に応じて歯科受診も支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を支援している。ホームの考え方としても容易にオムツを使用しないように周知徹底をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の対応としては医師、看護師へ相談して支援している。便秘予防として水分量の確保、運動、食を通して支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には2日に1回入浴して頂いている。回数等は本氏と相談して決めることもある。時間帯は入浴日に本人に確認して決めている。		

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全介助で自ら意思表示の出来ない方は、ある程度生活パターンは同じになっている。しかし意思表示が出来る方は本氏の生活リズムに任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬確認表を作成し、飲み忘れ・誤薬を防ぐよう努めている。薬情報をファイルしてあり、常にスタッフが確認できるようにして理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物が好きな方に彩り祭りのバザー品を作ってもらったり、料理が好きな方に手伝ってもらったり、お酒が好きな方が晩酌したりと楽しく生甲斐を持って生活出来る様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はドライブや散歩に出かけている。その際は行き先はなるべく入居者に決められている。墓参りも支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した先で自由に使えるよう支援している。		

グループホーム横浜名瀬・彩り

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方はいないが、電話は本氏からの訴えがあったり、家族からの電話があった時に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には緑を取り入れたり、グッピーを飼ったりして心地良い空間を演出している。太陽光をととても大切にしたい造りになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスにベンチを置いたり、リビングの畳やソファを用いて居心地の良い空間を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本氏の気に入っている物、使い慣れたものを持ち込んで頂くよう説明している。入居後は相談して居心地の良い空間作りを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計やカレンダーを色々な所に配置し混乱を防いでいる。居室やトイレにも名札をつける等の工夫をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム横浜
名瀬・彩り

作成日 平成22年1月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	運営に関して家族の意見を反映しようと意見箱を設置しているが、1度も投函されたことはない	運営に関して家族に参加して頂ける環境を作り、共に入居者の生活を支える関係を構築していく	家族会のような食事会を開催し広く意見を伺い、反映していく。	1年間
2	10	各分野から意見を聞いて介護計画を作成しているが、担当者会議のような話し合いの場は設けていない	担当者会議を行い、御本人様に最も適した個別介護計画を立案し実践していく	担当者会議の開催。センター方式の活用	1年間
3	13	勉強会は月1回行っているが、スタッフ一人一人のケアの質を上げるには更なる勉強が必要。	勉強会、研修を通じて一人一人のケアの質を向上出来る	月1回の勉強会の充実（病気、薬、虐待、認知症について等）。外部研修の参加。	1年間
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。